

これまで以上の覚悟で理想のまちを実現 ―――

所信表明

守田市政の3期目がスタート。
まちの明るい未来を実現するため、
就任当初から変わらぬ情熱を持ち続ける守田市長の信念とは。
市政運営のキーワード「6つの基本目標」を軸に3期目の意欲を語る。

コロナの克服、教育のまちづくり、Society 5.0社会の実現――。

ふるさと宇城市の再生と発展のために

Society 5.0とは
狩猟社会(Society 1.0)、農耕社会(2.0)、工業社会(3.0)、情報社会(4.0)に続く、わが国が目指すべき未来社会の姿。



01 再生・発展するまちづくり

アフターコロナを見据え、生活・社会・産業基盤の再生と発展に取り組みます。特に、市民の皆さんの利便性向上につながる行政のデジタル化を推進していきます。

- ・市民対話型窓口の設置
- ・光通信情報網を整備拡充し、在宅勤務やネットワークビジネスを活用した地場産業の経営基盤の整備
- ・公共料金などのキャッシュレス化
- ・AIなどを活用したSociety 5.0による未来都市の実現
- ・行政手続きのオンライン化

02 育つまちづくり

子どもは地域の宝。市の将来を担う子どもたちの教育環境を整備し、「子育てするなら宇城市」と言われるまちづくりを進めます。

- ・子どもや子育てに関する総合的な拠点施設の整備
- ・不知火小・小川中の校舎建て替え
- ・小・中学校のトイレを洋式化
- ・新給食センターの稼働を開始し、衛生管理基準を満たす給食を提供無料化を目指す
- ・3歳未満の保育料低額化と第3子以降の保育料無償化を継続

03 住み続けるまちづくり

健康で生きがいを持って暮らせるように皆さんの健康を守り、医療費や介護費の縮減にもつながります。また、医師会と連携して新型コロナウイルスのワクチン接種を実施。感染リスクを減らし、国と連携した対策でコロナ克服を目指します。

- ・3歳以上の副食費無償化を継続
- ・中学3年生までの医療費助成を継続
- ・特別支援教育支援員の充実
- ・外国語指導助手の増員
- ・民間活力による英語学習の強化
- ・全児童・生徒にタブレットを配付

健康で生きがいを持って暮らせるように皆さんの健康を守り、医療費や介護費の縮減にもつながります。また、医師会と連携して新型コロナウイルスのワクチン接種を実施。感染リスクを減らし、国と連携した対策でコロナ克服を目指します。

- ・医療・介護・介護予防・住まい・生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの確立
- ・生涯スポーツや文化活動の推進
- ・障がい者福祉の充実
- ・さしより野菜・たつぷり野菜事業の拡充
- ・健診の充実、受診しやすい環境の醸成と受診率の向上
- ・廃棄物減量化とリサイクルの推進

04 持続するまちづくり

まずは行政自身が持続可能であるように、施設の維持管理費など

05 選ばれるまちづくり

市内の人口は中心部で微増する地域がある一方、周辺部からは流出が増えています。しかし、他の自治体の先例ともなる持続可能な仕組みができれば、移住者増加の一助になります。市民と行政が一体となって取り組み、魅力あふれる未来都市を目指します。

- ・市の知名度、注目度、ブランド力の向上
- ・市内の観光資源を活用した交流人口増加による経済効果の波及
- ・熊本天草幹線道路の「宇土三角道路」を観光・定住の起爆剤に

06 活躍するまちづくり

皆が活躍するまちの実現には、互いの人権を尊重し、協力し合うことが必要です。ワーク・ライフ・バランスへの配慮や働き方改革に努め、子育てや介護しやすい環境をつくることで、誰もが働きやすく、活躍する環境づくりを目指します。また、文化・スポーツの振興や高等教育の充実を行います。

- ・ウイングまつばせの大規模改修
- ・図書館・美術館に民間活力を導入
- ・公共施設予約システムを導入
- ・通信制高等学校を誘致

目的達成のために

向こう4年間、今まで以上の覚悟を持って、必ず目的を達成します。中でも「コロナの克服」「教育のまちづくり」「Society 5.0社会の実現」に、注力して取り組みまいります。

市民の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

宇城市長

守田 悠史

3月2日に市議会で行われた所信表明演説を抜粋。全文はホームページをご覧ください。

